

がん検診促進



佐藤 一郎

問 がんの早期発見対策は、どのように取り組んでいるのか。

市長 特に入力しているのは、精密検査とかが必要でありながら未検査のままの方に直接受診をお勧めしていることなどです。精密検査等の受診率100%を目標に、治療に結びつけていただきたいと取り組んでいます。

予防・啓発を図って

問 早期受診に向けた対策は、どのように行っているのか。

健康福祉部長 受診率の向上のため年間を通じていろいろなご案内をしています。がん予防フォーラムや健康まつりを開催し、早期受診の重要性の周知を図っています。また、今年度限りですが女性特有のがん検診を推進しています。

問 がん予防普及活動や健

康づくりを啓発するために健康づくり推進員は今後どのように活動していくのか。

健康福祉部長 岩沼市健康づくり市民計画推進委員会を設立し、「いいわぬま」健康づくり隊」という愛称で活動しています。健康まつりなどイベントへの参加、いろいろな市民計画の推進、活動のPR、市と連携しながら健康づくりを市民を巻き込みながら進めていきます。

職員の退職者への雇用形態



須藤 功

問 市職員の定年退職者を再雇用しているが、なぜ6名も管理職として採用しているのか。ほかの自治体に比べて多いと思うがどうか。

市長 岩沼市では、ここ数年、職員の大規模退職を迎えています。こうした状況の中で行政サービスの水準を維持し、また、集中改革

プランに基づいて職員の定数削減をし、さらに人件費の抑制をしなければなりません。施設の長など可能なものについては、非常勤職員として市職員退職者を任用しています。

再任用制度の活用を

問 地方公務員法では特別職の非常勤職員は、特定の学識・経験を要する職務に任期を限って任用されるものだ。任用した根拠は何か。

市長 法令では、例えば公民館長については特別職ですが、これまでいろいろ役所の中で経験をしていますので、それらを生かすには非常に最適と考えます。

問 再任用制度に関する条例を岩沼市は平成13年に制定している。再任用制度を活用した採用をすべきではないか。

市長 再任用制度は非常勤職員と比べるとかなり人件費が増加します。職員定数にも影響が出る課題等もありますので、この点については慎重に取り組む必要があります。

安全、安心して通れる道路整備



森 繁男

問 幹線道路から離れた枝線が、舗装の老朽化で壊れ、はがれが目立つ。どうとらえているか。

市長 昭和50年代に舗装されたところが多く、相当年数が経過しています。舗装の亀裂、破損等が生じている箇所が見受けられます。状況に応じて対応していますが、希望通り舗装、補修が行えません。最近では補正予算をとってでも、安全安心な道路をつくる努力はしています。

子ども目線で標示を

問 大切な生活道路、見詰め直すべきと思うがどうか。

市長 通過車両が多い道路は、国、県の責任でやってもらわなければならない。岩沼市は、やはり生活道路に重点を置いて整備すべきと思います。枝線や狭い道路整備に相当ウェイトを置かなければならない時代だと思えます。



道路の亀裂、破損

問 新興住宅地の枝線道路では、子ども側から見て判断がつく標示板が必要と思うがどうか。

市民経済部長 交通安全標識、速度規制、進入禁止等、法的拘束力を伴うものは公安委員会が設置ということで、信号機等は警察署を通じて県に要望してきました。子ども側から見て判断がつく標示板は、注意喚起を目的とした法的拘束力を伴わないもの。地域や交通安全協会と相談しながら進めたいと考えます。

県立高校入試制度



桜井 隆